

## 会議録

会議の名称	平成29年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成29年7月24日（月）午後7時～午後9時
開催場所	加東市役所2階 201会議室
議長の氏名（座長 池田 潔）	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員> ・前田 晃                      ・岩佐文雄                      ・増田雅宏                      ・森 幹雄 ・青山涼平                      ・井上悦雄                      ・神戸洋一                      ・萬浪三郎 ・竹内 宏                      ・熊谷佳代                      ・臼井律夫                      ・藤本隆文 ・池田 潔	
<欠席委員> ・菅原雅人                      ・嶋田正望	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
<加西市> ・ふるさと創造部長 森井和喜 ・ふるさと創造部人口増政策課長 藤後 靖 ・ふるさと創造部人口増政策課主任 岩野裕之	<加東市> ・協働部長 時本敏行 ・協働部企画協働課長 長谷川 茂 ・協働部企画協働課副課長 下岡正裕 ・協働部企画協働課主事 戸田紘平
説明者として出席した市の職員	
・加西市及び加東市関係職員 24人	
オブザーバー	
<西脇市> ・都市経営部次世代創生課 課長及び課長補佐	<多可町> ・プロジェクト推進課 課長及び課長補佐
1 議 事	
(1) 報告事項	
定住自立圏構想について	
(2) 協議事項	
北播磨広域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について	
2 会議資料	
北播磨広域定住自立圏共生ビジョン連携事業の進捗状況 ほか	
3 会議の経過	
⇒別紙「平成29年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過」のとおり	
平成29年10月23日	
座長	池田 潔
副座長	岩佐文雄

発言者	会議の経過 / 発言内容
	<p>1 開会</p> <p>2 委員等出席者の紹介</p> <p>3 座長及び副座長の選出            座長：池田 潔 委員            副座長：岩佐 文雄 委員</p> <p>4 議事</p>
委員 事務局	<p>(1) 報告事項            定住自立圏構想について〔資料1〕            事務局から説明</p> <p>【質疑応答等】</p> <p>・加東市は、ごみ処理など小野市と連携しながら事業を進めている部分があると思うのですが、北播磨広域定住自立圏に小野市が入っていないのはなぜでしょうか。</p> <p>・定住自立圏の中心市になる条件として、昼夜間人口比率が1以上という条件がございます。加西市、加東市は1以上であります。小野市はその条件を満たしていない状況でした。そのため、近隣市町という位置づけでの参加という形で協議をしたところ、同意に至らず、小野市が入っておりません。</p>
委員 事務局	<p>・では、将来的にも小野市は入らず、この3市1町で進めていくということですか。</p> <p>・定住自立圏構想の取組としては、今の3市1町になってこようと思います。ただ、定住自立圏構想とはまた違った形で実施する広域の取組は出てくると考えております。</p>
委員	<p>(2) 協議事項            北播磨広域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について〔資料2〕            事務局及び担当職員から説明</p> <p>【質疑応答等】</p>
委員 担当	<p>・No.1の指標「地域医療普及啓発(病院フェスタ)事業や住民フォーラムの年間参加人数」の28年度の目標と実績が同じ数値となっておりますが、これはどのように設定されたのですか。</p> <p>・指標については、28年度末に目標設定させていただきました。医療フェスタ、住民フォーラムは、上半期に事業を実施しており、28年度に関しては、実績値を目標値ということで掲げさせていただいております。29年度以降については、事業を進め、参加人数を増やすという形での方向性としてしました。</p>
委員 担当	<p>・No.2の播磨内陸医務事業組合運営事業で、今年度も引き続き、圏域内の公的病院を修学資金制度の返還免除対象病院として取り扱う協議をするということですが、28年度においてはどの程度までの検討がなされたのでしょうか。</p> <p>・公立の市立病院については、この奨学金制度がすでに動いている状況ですが、多可町の公的病院において、病院の利用も多く、奨学金の免除の範囲が広げられないかということが協議の中心になっておりました。最終的にはかなり具体的なところまで話を詰めましたが、最終の決断というところまでは至りませんでしたので、今年度、引き続き協議を進める予定としております。</p>
副座長	<p>・図書館の相互利用化については、非常に進んでいると見受けられますが、文化・スポーツの振興に関して、大会を実施するにしてもかなり広域的なエリアになりますので、調整・準備など大変手間のかかる部分があると思います。これからの取組に期待したいと思います。</p>
委員	<p>また、兵庫教育大学を活用した連携講座につきましては、成果を上げておられると思いますので、これからも活発に行われるようお願いしたいと思います。</p> <p>・No.10の有害鳥獣の被害対策で、農業への被害が非常に大きい状況ですが、今後具体的にどのような形で被害を低減されたいこうと考えられているのでしょうか。</p>

	<p>No. 11の北播磨地場産業開発機構への支援で、播州織は主に西脇市の産業という認識があり、北播磨という部分で捉えるのはどうかというところがあります。また、指標について来場者だけを目標にするのが果たして適切かと思いますがどのように考えているのかお聞きしたいと思います。</p> <p>No. 12の創業支援について、創業セミナーの参加者人数を指標とされていますが、参加者を40人集めるだけが目標のように思えます。セミナーを実施したその後がどうなのかということが重要だと思いますが、いかがでしょうか。</p>
担当	<p>・農作物の獣害の被害を減らすには、柵の設置延長を増やすということと、増え過ぎたイノシシ、鹿等を一定量、獲っていくことが必要です。これを市町間でどのように連携していくのか、市町間をまたいで柵の設置ができるのかを検討しているところです。また、地域住民の意識改革も大切であると考えております。集落に有害鳥獣を寄せつけない方法などを勉強していただくためのセミナー、研修会等も行っており、このような研修会を広域連携の中でできないかを検討しているところです。</p>
担当	<p>・北播磨地場産業開発機構の支援事業における播州織の取組ですが、3市1町についてそれぞれの市町で特徴的な地場産業はあるものの、圏域の3市1町それぞれに事業者もあり、まとまって取り組んでいけるものということで播州織としています。</p>
担当	<p>指標についてですが、総合素材展への来場者にアパレル関係の方やアパレル関係に就きたいという学生の方を見込んでおり、将来的なものにつながっていくことも踏まえて、北播磨地場産業開発機構と協議の上、設定しております。</p>
担当	<p>・創業支援の取組ですが、各市町それぞれで創業力のセミナーの開催などは現在も進めています。この圏域での取組ですが、より多くの人、多くの業種の方たちと交流できることを期待して開催します。参加人数だけを目標にするだけではなく、開催後のフォローアップ、創業された方の経営状況などを重視しながらセミナーの内容に取り入れていきたいと思っております。</p>
委員	<p>・鳥獣被害のことで、猟友会の会員の高齢化に伴い、減っているという話を聞きます。それについてどのような対策を考えられているのかお聞かせ願いたいと思えます。</p>
担当	<p>・猟友会については、加東市だけでなく他の市町もそうですが、猟友会の会員に対して捕獲意欲を出していただくために捕獲により報償金を支払う制度を設けております。また、高齢化が進展している状況で、若い方に入っていただくために市単独事業で狩猟免許取得のための費用補助を行っております。</p>
委員	<p>・開発機構としましては、支援をいただいて総合素材展を7年ぶりに東京で開催でき、1,284人の参加者がありました。特にアパレル関係、商社等にきていただいたことで良い方向に進んでおり、来年も東京で開催したいと思っております。東京で開催したことによって手応えを感じておられる企業も多くおられますので、東京での開催を29年度もやっていきたいと考えております。引き続きご支援をお願いしたいと思っております。</p>
委員	<p>・No. 12の創業支援について、29年度は楽天から講師を招いてセミナーを実施されるということですが、これは1回のみでセミナーでしょうか。それとも数回に分けて実施されるセミナーでしょうか。</p>
担当	<p>・29年度につきましては1回のみを予定しております。そのセミナーの後にアンケートを実施し、その参加者の意向を酌み取りながら次年度に向けて計画を立てたいと考えております。</p>
委員	<p>・このようなセミナーは、1回受講することで刺激を受け、その後、数回に分けてフォローするのが効果的だと思いますので、そのあたりをアンケートの結果に基づいて実施してもらいたいと思えます。</p>
座長	<p>・No. 7で進捗状況が2となっていますが、まだ事業について検討されている段階で、何も実施していないように見受けられるため、未実施ではないのかと思えます。</p>
	<p>また、No. 11について、共生ビジョンには播州織に加えて播州釣針などの地場産業の振興に向けてという文言が事業概要にあるので、播州織以外の地場産業についてどのような目配りをされているのか教えていただけますでしょうか。</p>
担当	<p>・No. 7について、28年度はスポーツ交流大会開催に向けての調整を行っており、最終調整段階であったため、そのような評価をしております。最終的にグラウンドゴ</p>

	<p>ルフチャンピオンシップ大会が平成30年3月3日の開催、ソフトボール教室が平成29年12月10日に圏域の中学生、高校生のソフトボール部を集めて開催するということが決まっております。</p>
担当	<p>・播州釣針をはじめ、このエリアにはさまざまな地場産業がございますので、地場産業開発機構と連携しながら他の地場産業にも目を向けたいと考えております。</p>
委員	<p>・先ほどの質問の返答の中で、播州織が各市町にあるということでしたが、釣針組合は西脇市と加東市にあると思います。所属している社数や生産高、販売高について播州織との比較を踏まえて今後の取組について、お聞きしたいと思います。</p>
担当	<p>・現在、北播磨地場産業開発機構支援事業という形で取り組んでいるのは播州織に関する取組であります。広いエリアで考えると播州釣針などに目を向ける必要があると考えますので、今後検討していきます。</p>
委員	<p>・No. 14で、広域的な備蓄体制を整備するのは重要であると思いますが、地区の事例を出すと、管理する地区の区長や各地域の消防団員がどこに備蓄倉庫があって、何が備蓄されているのかわかっていない人が多い状況です。なので、各市町で共有するのは確かに有効であると思いますが、地域に対しても、どこに何があるのかをPRしていただきたいと思っております。</p>
	<p>もう一点、地区の事例ですが、滝野地域には防災倉庫が3つございます。今後、防災倉庫まで行くことができない災害が発生する可能性があるため、各地区に1つずつ防災倉庫は必要であるという結論となりました。このように地域のことも考えながら広域の取組を行っていただきたいと思っております。</p>
	<p>それからもう一点、No. 19の取組で、私も税務課にいたことがあるので、その経験から写真は簡単に撮ることができると思います。ただ、現在入っているシステムの関係から各市町の業者が一本に決まっていけるかどうか、評価の仕方が各市町で違うといったことについてまとめられるかという疑問を感じます。私のときもいろいろと話をさせてもらいましたが、なかなかできなかったという経緯があります。そのあたりは今後調整されると思いますが、今の考え方についてお伺いしたいと思います。</p>
担当	<p>・各市町の備蓄場所、備蓄内容ですが、加西市の場合を申し上げますと、一般市民の方はわかっておられません。水害になった際は、土のう袋は消防署・市役所にありますので来てくださいという連絡はしておりますが、個々のものについてどこに何があるという連絡はしておりません。実際に、非常時のときには災害対策本部で要望に応じて用意をするという状況であると思っております。委員のご意見のとおり、地域の方も把握できるよう管理ができればいいと思いますが、全てをみなさんに周知するのは難しいと思っております。今後、そのことについて代表区長などにお知らせする体制を整備するなど検討していきたいと思っております。</p>
	<p>2点目の地区ごとへの防災倉庫の設置のご意見について、各市町それぞれの事情もあり一概には言えませんが、委員がおっしゃるとおり、1カ所に集中するとそこに災害が起こった場合、全く使えないというようなこととなりますので、分散して保管するのが良いと思います。今後、このご意見について各市町との会議の場で投げかけたいと思います。</p>
担当	<p>・航空写真のことでご質問いただきました件で、委員のご指摘のとおり、3市1町とも別の業者でありますので、写真だけを切り離すことは可能ですが、撮影の精度や評価の仕方が異なっているため、そのあたりの統一について協議を重ねている状況です。和歌山県でこのような広域の撮影を実施した事例は、業者が全て一緒であり、県が共同発注したというものでした。現在、各市町間での相違点が多いことから、なかなか次の段階に踏み込めないという状況でございます。</p>
委員	<p>・No. 13の家屋被害認定士の育成及び既存認定士の研修について、基本的なことをお聞きしますが、家屋被害認定士というのは全壊や半壊などを判断する方のことでしょうか。また、現在、圏域内に何人ほどおられるのか、あと何人の新たな認定士が必要なのか教えていただければと思います。</p>
	<p>No. 14について、私がいる西脇市の野村地区では、2年に1度、全体の防災訓練を行っており、備蓄品の切迫品について市にお願いをしているといった状況ですが、その備蓄品の切迫品をどのように処理されているのか、使われているのかということをお聞きしたいと思います。</p>
担当	<p>・被害認定士ですが、先ほどおっしゃったように被害の状況に応じて全壊・半壊などを認定する者です。認定士の数ですが、加西市の状況しか持ち合わせておらず大</p>

	<p>変申し訳ありませんが、加西市の認定士は34人と、28年度に新たに9人の認定士を認定しております。</p> <p>No. 14の備蓄品ですが、期限切れが近づいたものに関しては、地域で行われる防災訓練や出前講座で生徒の皆さんに配るほか、加西市で年に2回実施する各町を対象とした水害時に備えての土のうづくりの際に、試食品として提供しています。加えて、小学校などの行事で提供する機会があれば期限が切れる半年前ぐらいのものは出すようにしております。</p>
委員	<p>・平成28年の4月より交通系ICカードの全国相互利用を開始しております。IC構築、ICを使っての移動の環境整備を整えている状況であることをまず紹介させていただきます。</p>
	<p>No. 20において、今後の予定では30年度に試験運行とありますが、しっかり目標、目的を持って慎重に検討させていただきたいことや業界での人員が不足している状況も踏まえて、十分時間をとりながら進めていただきたいと思います。</p>
	<p>重ねてのお願いですが、例えば道路や橋梁などの改修がある場合については、情報を緊密にさせていただき、私たちにも改良の情報をいただきたく存じます。その情報から路線変更等も十分考えられますので、よろしく願います。</p>
担当	<p>最後に提案ですが、No. 6の図書館相互利用推進事業について、それぞれの図書館に図書・書籍をどのように配達しているのかわかりませんが、現在、バスの中に荷物を載せて移送するという取組もあり、うまく活用いただければコスト削減につながると思いますので、またご検討いただければと思います。</p>
委員	<p>・本の配達の見直しについて、加東市の場合はシルバー人材センターにお願いして配達していただいています。他の市町につきましても、担当者が各図書館の預かった本を持ち寄っているという状況です。そのような中で、事業の予算としては、公用車のガソリン代やシルバー人材センターへの委託費用など費用的には多くない状況ではありますが、一つの案として検討させていただきたいと考えております。</p>
委員	<p>・公共交通のことで、高齢者の事故が増えてきており、免許証の返納が多くのところでは言われていますが、実際に足がなければたちまち買い物難民、医療難民になってしまいます。交通事業者にはこのことをしっかり踏まえてご協力いただきたいと思います。やはり圏域内の住民に対して、その認識を高める対策が重要だと思います。最近、市から交通のガイドブックが配られ、便利な移動手段や目的地への最短ルートなどを知る機会が増えてきております。それによって公共交通を利用するようになった周りの方たちも増えてきている状況です。ICカードが広域的に利用できるのは初めてお聞きしましたが、知らないから利用できないということがありますので、やはり住民に対してのPRに力を入れていただきたいと思います。</p>
担当	<p>また、先進地での取組を是非参考にさせていただき、取組の中に取り入れていただいたら良いと思います。</p> <p>・委員のおっしゃるとおり、北播磨3市1町については自家用車の依存度が非常に高いということを各市町認識しております。公共交通利用促進事業においてガイドマップを作成する中で、ご意見いただいたとおり、作成しただけで終わるのではなく、それを活かしてみなさまに利用していただけるよう、交通事業者と協力しながら進めたいと思います。また、住民の方にも公共交通の利用についてご協力いただければと思います。</p>
委員	<p>・創業支援事業について、創業件数が示されていますが、どのような創業があったのか、その内容について報告していただければと思います。</p> <p>また、災害の件について、私の地元は上滝野ですが、今家にいる高齢者が多い状況です。高齢者でもできるようなことがございましたら、今後教えていただければと思いますのでよろしくお願いします。</p>
担当	<p>・創業支援について、加東市以外のところは把握できておりませんが、28年度は農業3件、製造業2件、小売3件、飲食業12件、建設業2件、サービス業10件、その他3件となっています。業種ごとの把握のみで具体的に創業したお店までは把握できておりません。</p>
委員	<p>・観光資源開発についてはそれぞれの市町が連携し、パンフレットやガイドマップを作成していただいている状況だと思います。ただ、多くの観光客に来ていただくのは良いことですが、お金をあまり使っていない印象を受けます。観光でお金を使っただけ、地域にどれぐらいの経済効果があったかを測るのは難しいとは思いますが、そういうところも考える必要があると思います。そういう意</p>

	<p>味では、次年度への課題に効果の検証とあるので、どういったものを効果と判断するのか、その基準を考えながら新たな観光施策を考えていく必要があると思いました。ただ、現在のこの取組内容については十分に活動していただいていると感じております。</p>
<p>担当</p>	<p>・経済効果に関しては、ガイドマップに掲載された事業所に対して、掲載されたことによる影響等の聞き取りは行っていますが、それ以上の経済効果というところまでは測れていないのが正直なところです。どのように測っていくのかということも含め、今後検討していきたいと思えます。</p>
<p>座長</p>	<p>・No. 28ですが、公平委員会となっているのですが、行政委員会の間違いではないですか。</p>
<p>担当</p>	<p>・行政委員会の中の公平委員会であり、間違いではございません。</p>
<p>座長</p>	<p>・No. 4の次年度への課題における記載の仕方において、医師の派遣にも限界があつてなかなか対応できない状況にあると記載されると出口のない課題になってしまうので、書き方の工夫をしていただければと思います。</p> <p>5 その他 事務局から説明</p> <p>6 閉会 副座長</p>